



教職員分科会

7月17日(金)15:15～
平洲小学校ミーティング
ルームにて教職員分科会
1回目を開催しました！

1.あいさつ(開催趣旨、検討委員会の進め方について)

●なぜワークショップを開催する？

今回の平洲小学校建替えは、中学校敷地に小学校を移転建替えする市として初めての試みです。
みなさまからの意見を伺いながら、施設整備へ反映していくため、ワークショップを行います。

●今後のスケジュールは？

教職員分科会は、保護者・地域住民分科会との合同開催を含め、全5回を予定しています。
毎回テーマごとに意見交換を行い、いただいた意見を参考にしながら、令和8年度中に「平洲小学校施設整備方針」を策定します。

2.ワークショップ

進行役を鈴木賢一委員(名古屋市立大学特任教授)にバトンタッチし、小学校と中学校の混合で
「じんちゃんチーム」「へいしゅうくんチーム」の2チームに分かれてテーマごとに意見交換しました。
最後に各チームの意見を発表しました。

テーマ① 小学校と中学校の連携や取組みから期待される効果と課題

<議論ポイント>

同一敷地に小・中学校が共存するのは、愛知県内で数件の先例があるものの、既存の中学校の敷地に小学校が来るのは珍しいケース。その中でどのようなことが期待できるか、あるいは心配されるか、教職員の視点から意見交換しました。

ここが期待できる！(連携できる)

- 中学生を小学生のところにゲストティーチャーとして招き、知識や経験を共有するなど、授業における連携
- 小・中の保護者同士での連携、情報共有など、地域における連携
- 小・中の教員がお互いの授業を見に行く、情報交換など、教員同士の連携
- 運動場を共有することで、一緒に遊べる
- 図書館を共有することで、読める本の幅が広がる
本好きの小学生は中学校の本を読めると喜ぶ
- スペースの共有による建物利用の効率化
- 教具の共有により予算が通りやすくなる

ここがどうかな？(課題・不安)

- 運動場を共有することで、けがのリスク増加
- 授業のスケジュール管理
- 小学校の跡地で中学生の体育の授業を行う場合、移動時間が長くなる
- 職員の駐車場が不足する
小学校の跡地に職員用の駐車場を設ける必要がある
- 小・中でタイムスケジュールが異なるため、チャイムをどうするか、児童生徒の集中力の低下も心配
- ノーチャイムで運用という選択肢もあるが、うまくいくか
- 特別支援のクラス数が小・中とも多いため、必要な教室数の確保

テーマ② 地域との連携の現状と課題

<議論ポイント>

学校の建替えは地域との関係を見直す良い機会。学校と地域のさらなる連携が必要とされている社会背景も踏まえて、教職員の視点から、地域の人たちに支援をお願いできると良いこと、一緒に取り組みたいことなどを意見交換しました。

ここが期待できる！(連携したい)

- 小・中の予算の集約によって地域連携がとりやすくなる
- 登下校の見守り(現在、中学校の見守りが手薄)
- ボランティアの募集を小・中の一括で行える
- 地域教材・ゲストティーチャーが増える
- イベントの案内スペースを共有できる
- 小中チームでイベントに参加など、コミュニティ行事の盛り上がり
- 放課後児童クラブの運営サポート
- 早朝預かりの実施
- 特別支援のサポート
- 環境整備のサポート

ここがどうかな？(課題・不安)

- 地域とのイベントが盛んになるのは良い反面、教員の時間外労働が増える



ワークショップの様子

